

各関係機関の長 様
病害虫防除員 様

滋賀県病害虫防除所長

病害虫発生予報第8号について

このことについて、以下のとおり発表したので送付します。

平成30年病害虫発生予報第8号

平成30年(2018年) 8月 7日
滋 賀 県

【予報概要】

大阪管区気象台の発表では、向こう1か月の気象予報では気温は高く、降水量は少なく、日照時間は平年並または多い見込み。

作物名	病害虫名	時期	発生量	作物名	病害虫名	時期	発生量
イネ	穂いもち	平年並	やや少	キク	アブラムシ類	-	やや少
	紋枯病	平年並	やや少	果樹全般	カメムシ類	-	多
	白葉枯病	-	やや少	ナシ	ナシヒメシクイ	-	平年並
	トビイロウンカ	-	平年並	カキ	炭疽病	-	やや少
	ツマグロヨコバイ	-	平年並		カイガラムシ類	-	平年並
	斑点米カメムシ類	-	平年並		チャノキイロアザミウマ	-	平年並
	コブノメイガ	-	少	チャ	炭疽病	-	平年並
ダイズ	べと病	-	やや少		もち病	-	平年並
	アブラムシ類	-	少		新梢枯死症	-	平年並
	ハダニ類	-	平年並		カンザワハダニ	-	平年並
	吸実性カメムシ類	-	平年並		チャノコカクモンハマキ(Ⅲ)	やや遅	やや少
	ハスモンヨトウ	早	やや多		チャノミドリヒメヨコバイ	-	平年並
	フタスジヒメハムシ	-	平年並		チャノキイロアザミウマ	-	平年並
野菜全般	アブラムシ類	-	やや少	クワシロカイガラムシ(Ⅱ)	やや早	やや多	
	ハダニ類	-	平年並	チャトゲコナジラミ(Ⅱ)	平年並	やや多	
	ハスモンヨトウ	平年並	やや多				
	タバコガ類	-	やや多				
アブラナ科 野菜	コナガ	-	やや多				
	ヨトウガ	-	やや少				
	ハイマダラノメイガ	やや遅	平年並				

A. イネの病害虫

1. 穂いもち(中生、晩生品種)

予報内容 発生時期: 平年並

発生量: やや少

予報の根拠

- (1) 出穂期は平年並の見込み。
- (2) 穂いもちの発生を認めた。
- (3) 葉いもちの発生量は少ない。

(4) 気象予報では気温は高く、降水量は少なく、日照時間は平年並または多い見込み。

防除上注意すべき事項

- (1) 出穂期頃に降雨があると多発生する場合がありますので、上位葉に葉いもちの病斑が認められるほ場では特に注意する。
- (2) 粉剤や液剤で防除する場合は、防除適期を逃すと著しく効果が低下するので、必ず穂ばらみ期～出穂期に防除する。
- (3) 薬剤耐性菌を生じやすいので、同一グループ薬剤の連用を避ける。

2. 紋枯病（中生、晩生品種）

予報内容 発生時期：平年並

発生量：やや少

予報の根拠

- (1) 中生品種の茎数は平年並。
- (2) ほ場での発生量は、やや少ない。
- (3) 気象予報では気温は高く、降水量は少ない見込み。

防除上注意すべき事項

- (1) 昨年、発生の多かったほ場では特に注意する。
- (2) 発生が多いほ場では、薬剤が株元によくかかるように散布する。

3. 白葉枯病

予報内容 発生量：やや少

予報の根拠

- (1) 前年の発生量は少なかった。
- (2) ほ場での発生は認めていない。
- (3) 気象予報では気温は高く、降水量は少ない見込み。

防除上注意すべき事項

- (1) 「キヌヒカリ」「ゆめおうみ」「ハナエチゼン」は発病しやすいので特に注意し、ほ場が浸冠水した場合は排水に努める。

4. トビイロウンカ

予報内容 発生量：平年並

予報の根拠

- (1) 本県での発生を認めていない。
- (2) 気象予報では気温は高く、降水量は少ない見込み。

防除上注意すべき事項

- (1) 極早生品種および早生品種では、今年の防除は必要ない。
- (2) 移植時に、長期持続型箱粒剤を施用したほ場および7月下旬～8月中旬に浸透移行性のある粉剤・粒剤・液剤を散布したほ場では、防除の必要性は低い。
- (3) 株元をよく観察して、出穂期までに発生を認めた場合は薬剤を散布する。

5. ツマグロヨコバイ

予報内容 発生量：平年並

予報の根拠

- (1) 予察灯への飛来量は平年並。
- (2) ほ場での発生量は少ない。

(3) 気象予報では気温は高く、降水量は少ない見込み。

防除上注意すべき事項

(1) 防除の目安は、8月上旬の見取り調査で1株あたり20頭以上認められた場合、またはすくい取り調査で捕虫網10回振り当たり100頭以上捕獲された場合とする。

6. 斑点米カメムシ類

予報内容 発生量：平年並

予報の根拠

(1) ほ場での発生量は平年並。

(2) 気象予報では気温は高く、降水量は少ない見込み。

防除上注意すべき事項

(1) イネの出穂2～3週間前と出穂期の畦畔2回草刈りは効率的である。なお畦畔雑草地などの除草を7月上旬に広域的に行った場合、その後も畦畔雑草地のイネ科雑草が出穂しないように適正に管理する。

(2) ヒエなどのイネ科雑草が水田内に生えている場合は、速やかに除去する。

(3) 穂揃前に斑点米カメムシ類が確認できるほ場では、糊熟期(出穂16日後を中心に)出穂10～20日後)に薬剤防除する。

(4) ほ場周辺の畦畔や雑草地にアカスジカスミカメの発生が多い場合は、乳熟期頃(出穂7～10日後)にも防除する。

(5) 粒剤を施用する場合、田面を露出させない程度に湛水状態とする。散布時期は乳熟期(出穂7～10日後)とするが、キラップ粒剤を使用する場合は、出穂10日前～出穂期に散布する。

7. コブノメイガ

予報内容 発生量：少

予報の根拠

(1) ほ場での発生は少ない。

(2) 気象予報では気温は高く、降水量は少ない見込み。

防除上注意すべき事項

(1) 極早生・早生品種では防除の必要性は低い。中生・晩生品種、晩植田や直播田では被害が発生する危険性があるので注意する。

(2) 防除の目安は、中生・晩生品種では、8月上旬の被害株率が20%以上または8月中旬に上位2葉の被害葉率が20%以上とする。

B. ダイズの病害虫

1. ベと病

予報内容 発生量：やや少

予報の根拠

(1) ほ場での発生を認めていない。

(2) 気象予報では気温は高く、降水量は少ない見込み。

防除上注意すべき事項

(1) 「タマホマレ」は発病しやすいので注意する。

(2) 発生初期に薬剤を散布する。

2. アブラムシ類

予報内容 発生量：少

予報の根拠

- (1) ほ場での発生を認めていない。
- (2) 黄色水盤での誘殺数は平年並。
- (3) 気象予報では気温は高く、降水量は少ない見込み。

防除上注意すべき事項

- (1) 発生初期から薬剤を散布する。
- (2) 薬剤抵抗性を獲得しやすいので、同一グループ薬剤の連用を避ける。

3. ハダニ類

予報内容 発生量：平年並

予報の根拠

- (1) ほ場での発生量は、やや少ない。
- (2) 気象予報では気温は高く、降水量は少ない見込み。

防除上注意すべき事項

- (1) 発生初期から薬剤を散布する。
- (2) 薬剤抵抗性を獲得しやすいので、同一グループ薬剤の連用を避ける。

4. 吸実性カメムシ類

予報内容 発生量：平年並

予報の根拠

- (1) ほ場での発生を認めていない。
- (2) 気象予報では気温は高く、降水量は少ない見込み。

防除上注意すべき事項

- (1) 若莢期～子実肥大期に薬剤を散布する。

5. ハスモンヨトウ

予報内容 発生時期：早

発生量：やや多

予報の根拠

- (1) ほ場での発生時期は早い。
- (2) フェロモントラップでの誘殺数は平年並。
- (3) 気象予報では気温は高く、降水量は少ない見込み。

防除上注意すべき事項

- (1) 早期発見に努め、群せいしているうちに捕殺する。
- (2) 幼虫が中齢以降になると薬剤の効果が著しく低下するので、若齢期に薬剤を散布する。

6. フタスジヒメハムシ

予報内容 発生量：平年並

予報の根拠

- (1) ほ場での発生量は、やや少ない。
- (2) 気象予報では気温は高く、降水量は少ない見込み。

防除上注意すべき事項

- (1) 子実肥大初期に薬剤を散布する。

C. 野菜（露地）の病害虫

1. 野菜全般：アブラムシ類

予報内容 発生量：やや少

予報の根拠

- (1) ほ場での発生量は少ない。
- (2) 黄色水盤での誘殺数は平年並。
- (3) 気象予報では気温は高く、降水量は少ない見込み。

防除上注意すべき事項

- (1) 発生初期から薬剤を散布する。
- (2) 薬剤抵抗性を獲得しやすいので、同一グループ薬剤の連用を避ける。

2. 野菜全般：ハダニ類

予報内容 発生量：平年並

予報の根拠

- (1) ほ場での発生量は、やや少ない。
- (2) 気象予報では気温は高く、降水量は少ない見込み。

防除上注意すべき事項

- (1) 発生初期から薬剤を散布する。
- (2) 薬剤抵抗性を獲得しやすいので、同一グループ薬剤の連用を避ける。

3. 野菜全般：ハスモンヨトウ

予報内容 発生時期：平年並

発生量：やや多

予報の根拠

- (1) ほ場での発生時期は平年並。
- (2) フェロモントラップでの誘殺数は平年並。
- (3) 気象予報では気温は高く、降水量は少ない見込み。

防除上注意すべき事項

- (1) 早期発見に努め、群せいしているうちに捕殺する。
- (2) 幼虫が中齢以降になると薬剤の効果が著しく低下するので、若齢期に薬剤を散布する。

4. 野菜全般：タバコガ類

予報内容 発生量：やや多

予報の根拠

- (1) ほ場での発生量は平年並。
- (2) フェロモントラップでの誘殺数は、オオタバコガでは、やや少なく、タバコガでは多い。
- (3) 気象予報では気温は高く、降水量は少ない見込み。

防除上注意すべき事項

- (1) 早期発見に努め、被害果、被害茎を除去する。
- (2) 若齢期に薬剤を散布する。

5. アブラナ科野菜：コナガ

予報内容 発生量：やや多

予報の根拠

- (1) 予察灯への誘殺数は平年並。

(2) 気象予報では気温は高く、降水量は少ない見込み。

防除上注意すべき事項

(1) 発生初期に薬剤を散布する。

(2) 薬剤抵抗性を獲得しやすいので、同一グループ薬剤の連用を避ける。

6. アブラナ科野菜：ヨトウガ

予報内容 発生量：やや少

予報の根拠

(1) ほ場での発生時期は平年並。

(2) フェロモントラップでの誘殺数は平年並。

(3) 気象予報では気温は高く、降水量は少ない見込み。

防除上注意すべき事項

(1) 早期発見に努め、群せいしているうちに捕殺する。

(2) 若齢期に薬剤を散布する。

7. アブラナ科野菜：ハイマダラノメイガ

予報内容 発生時期：やや遅

発生量：平年並

予報の根拠

(1) 指標植物であるクレオメでの発生を認めていない。

(2) 気象予報では気温は高く、降水量は少ない見込み。

防除上注意すべき事項

(1) セル成型苗やペーパーポット苗に、登録のある薬剤を灌注する。

(2) 発生初期に薬剤を散布する。

D. キクの病害虫

1. アブラムシ類

予報内容 発生量：やや少

予報の根拠

(1) ほ場での発生量は少ない。

(2) 黄色水盤での誘殺数は平年並。

(3) 気象予報では気温は高く、降水量は少ない見込み。

防除上注意すべき事項

(1) 発生初期から薬剤を散布する。

(2) 薬剤抵抗性を獲得しやすいので、同一グループ薬剤の連用を避ける。

E. 果樹の病害虫

1. 果樹全般：カメムシ類

予報内容 発生量：多

予報の根拠

(1) 予察灯での果樹カメムシ類の誘殺数は、やや多い。

(2) 気象予報では気温は高く、降水量は少ない見込み。

防除上注意すべき事項

(1) [注意報第2号](#)を参照のこと。

2. ナシ：ナシヒメシンクイ

予報内容 発生量：平年並

予報の根拠

(1) フェロモントラップでの誘殺数は平年並。

- (2) ほ場での被害果数は、やや少ない。
- (3) 気象予報では気温は高く、降水量は少ない見込み。

防除上注意すべき事項

- (1) 被害果は処分する。
- (2) 被害は収穫直前に多くなる。特に「豊水」等の中晩生種には注意が必要である。

3. カキ：炭疽病

予報内容 発生量：やや少

予報の根拠

- (1) ほ場での発生量は少ない。
- (2) 気象予報では気温は高く、降水量は少ない見込み。

防除上注意すべき事項

- (1) 「富有」「早秋」等は発病しやすい。
- (2) 病枝、病果は集めて処分する。
- (3) 特に、台風後の発病が多くなる。

4. カキ：カイガラムシ類

予報内容 発生量：平年並

予報の根拠

- (1) ほ場での発生量は平年並。
- (2) 気象予報では気温は高く、降水量は少ない見込み。

防除上注意すべき事項

- (1) 過繁茂の園は夏期せん定を励行する。

5. カキ：チャノキイロアザミウマ

予報内容 発生量：平年並

予報の根拠

- (1) ほ場での被害果数は平年並。
- (2) 気象予報では気温は高く、降水量は少ない見込み。

防除上注意すべき事項

- (1) 「平核無」は加害されやすい。
- (2) 茶園隣接地の果樹園は特に被害が著しい。

F. チャの病害虫

1. 炭疽病

予報内容 発生量：平年並

予報の根拠

- (1) ほ場での発生量は平年並。
- (2) 気象予報では気温は高く、降水量は少ない見込み。

防除上注意すべき事項

- (1) 二番茶残葉に発生した病葉が伝染源となり三番茶芽に感染する。
- (2) 感染は新芽の生育期に限られるため、伝染源が多い茶園では三番茶芽の萌芽期～1葉開葉期と2～3葉期に薬剤を散布する。

2. もち病

予報内容 発生量：平年並

予報の根拠

- (1) ほ場での発生量は平年並。
- (2) 気象予報では気温は高く、降水量は少ない見込み。

防除上注意すべき事項

- (1) 山間地の茶園や、平坦地でも木陰や建物の裏側など風通しや日当たりの悪い茶園でよく発生する。
- (2) 発生が見られる茶園では、三番茶芽の開葉期に薬剤を散布する。

3. 新梢枯死症

予報内容 発生量：平年並

予報の根拠

- (1) ほ場での発生量は平年並。
- (2) 感染源となる輪斑病葉の発生量は平年並。
- (3) 気象予報では気温は高く、降水量は少ない見込み。

防除上注意すべき事項

- (1) 原因となる病原菌は輪斑病菌であり、輪斑病の多発茶園で発生しやすいので、輪斑病の発生が認められる茶園では、三番茶芽の萌芽期および2～3葉期に薬剤を散布する。

4. カンザワハダニ

予報内容 発生量：平年並

予報の根拠

- (1) ほ場での発生量は平年並。
- (2) 気象予報では気温は高く、降水量は少ない見込み。

防除上注意すべき事項

- (1) 発生園では、葉裏にもよくかかるよう薬剤を散布する。

5. チャノコカクモンハマキ (第3世代幼虫)

予報内容 発生時期：やや遅

発生量：やや少

予報の根拠

- (1) 第2世代成虫の初飛来日は、やや遅い。
- (2) 第2世代成虫のフェロモントラップでの誘殺数は、やや少ない。
- (3) ほ場での発生量は、やや少ない。
- (4) 気象予報では気温は高く、降水量は少ない見込み。

防除上注意すべき事項

- (1) 発生量が多い茶園では、幼虫が茶葉をとじる前の若齢期に薬剤を散布する。

6. チャノミドリヒメヨコバイ

予報内容 発生量：平年並

予報の根拠

- (1) ほ場での発生量は、やや少ない。
- (2) 気象予報では気温は高く、降水量は少ない見込み。

防除上注意すべき事項

- (1) 発生量が多い茶園では、三番茶芽の萌芽～開葉期に薬剤を散布する。
- (2) 降雨が少なく乾燥状態が続く条件下で、急激に増加する場合がありますので注意する。

7. チャノキイロアザミウマ

予報内容 発生量：平年並

予報の根拠

- (1) ほ場での発生量は、やや少ない。
- (2) 気象予報では気温は高く、降水量は少ない見込み。

防除上注意すべき事項

- (1) 発生量が多い茶園では、三番茶芽の萌芽～開葉期に薬剤を散布する。
- (2) 降雨が少なく乾燥状態が続く条件下で、急激に増加する場合がありますので注意する。

8. クワシロカイガラムシ（年2回発生地域・第2世代幼虫）

予報内容 発生時期：やや早

発生量：やや多

予報の根拠

- (1) 第1世代成虫の発生時期は早い。
- (2) 第2世代幼虫ふ化最盛期の有効積算温度（688 日度、起算日 第1世代ふ化最盛期、発育零点 10.8℃、高温補正 30℃）による予測日は、やや早い。
- (3) 第1世代成虫の寄生株率（雄繭）は、やや多い。
- (4) 気象予報では気温は高く、降水量は少ない見込み。

防除上注意すべき事項

- (1) 防除は、ふ化～定着直後の幼虫を対象とし、ふ化最盛期（50%ふ化卵塊が過半数に達した時期）の約2～3日後が防除適期となる。

9. チャトゲコナジラミ（第2世代幼虫）

予報内容 発生時期：平年並

発生量：やや多

予報の根拠

- (1) 第1世代成虫の発生ピークは平年並。
- (2) 第1世代成虫の黄色粘着板での誘殺数は多い。
- (3) 調査茶園における幼虫の発生量は、やや多い。
- (4) 気象予報では気温は高く、降水量は少ない見込み。

防除上注意すべき事項

- (1) 防除は若齢幼虫を対象とし、成虫の発生ピークから 15 日程度経過し、成虫の発生がほとんどなくなった時期が防除適期である。ただし、茶園により差があるので、若齢幼虫の寄生状況を事前に確認する。
- (2) すそ部や葉層内の葉裏によくかかるように防除する。

防除対策(耕種的防除や薬剤防除など)については、滋賀県農作物病虫害雑草防除基準を参照してください。

病虫害防除に関する情報

滋賀県病虫害防除所 病虫害の発生予察などの関連情報

<http://www.pref.shiga.lg.jp/g/byogaichu/>

滋賀県農作物病虫害雑草防除基準

滋賀県における病虫害や雑草の適切かつ安全な防除および危被害防止についての基準

<http://www.pref.shiga.lg.jp/g/kodawari/noyakuhiryo.html>

滋賀県病虫害防除所

〒521-1301 滋賀県近江八幡市安土町大中5 1 6

TEL 0748-46-6160・4926

FAX 0748-46-5559

Email GC70@pref.shiga.lg.jp

<http://www.pref.shiga.lg.jp/g/byogaichu/>

農薬を扱うみなさまへ

農薬取締法や滋賀県では、農薬を販売する者・使用する者が守らなければならない事項、守っていただきたい事項を次のように定めています。これらのことを守り、農薬の適正な流通、安全・適正な使用に努めましょう。

下線部は、農薬取締法・関係法令で定められ、農薬を扱うものが守るべき事項です。

下線部を守らないと、農薬取締法違反で罰せられます。

1. 販売に関すること

- ① 農薬登録番号等が適正に表示された農薬および特定農薬以外の農薬を販売しないこと。
- ② 販売禁止農薬を販売しないこと。
- ③ 農薬の効果等に関して、虚偽の宣伝をして販売しないこと。
- ④ 無登録の農薬について、農薬登録を受けていると誤認させるような宣伝をしないこと。
- ⑤ 販売者は、取り扱う全ての農薬について、種類別に仕入数量と譲渡数量（水質汚濁性農薬については譲渡先別譲渡数量）を帳簿に正確に記載し、3年間保存すること。
 - ・ 農薬単独の帳簿で、日別に記載し、在庫管理ができる帳簿にしてください。
 - ・ コンピューターで管理している場合は、過去の実績をプリントアウトしておいてください。
- ⑥ 農薬登録がされていないいわゆる非農耕地専用除草剤には、容器又は包装に農薬として使用できない旨を表示すること。また、非農耕地専用除草剤の販売者は、販売所ごとに、公衆の見やすい場所に、非農耕地専用除草剤を農薬として使用できない旨を表示すること。
- ⑦ 農薬は他の品目（特に食品）と混在して陳列しないでください。
- ⑧ 農薬は住居（生活空間）で保管しないでください。
- ⑨ 農薬はいつも目の届く場所に陳列してください。
- ⑩ 盗難防止対策をとってください。
- ⑪ 最終有効年月を過ぎた農薬は販売しないようにしましょう。
- ⑫ 毒物劇物を販売している方は、毒物及び劇物取締法の規定を遵守してください。

2. 使用に関すること

- ① 農薬登録番号等が適正に表示された農薬および特定農薬以外の農薬を使用しないこと。
- ② 販売禁止農薬を使用しないこと。
- ③ 食用農作物等に農薬を使用するときは、次に掲げる基準を遵守すること。
 - ・ ラベルに記載されている農作物のみに当該農薬を使用すること。
 - ・ 使用量
面積当たりの規定量を超えて農薬散布をしない。
 - ・ 希釈倍率
規定された希釈倍率の最低限度を下回る希釈倍数での農薬散布をしない。
 - ・ 使用時期を厳守すること。
規定された使用時期以外に農薬散布をしない。
 - ・ 各有効成分ごとの総使用回数を超えて使用しないこと。
（種苗を用いる場合は、種苗に表示のある有効成分ごとの農薬の使用回数を勘案する必要がある）
 - ・ 最終有効年月を過ぎた農薬を使用しないようにしてください。
- ④ 次に掲げる事項を帳簿に記載するようにしてください。

農薬を使用した年月日・場所・農作物等・農薬の種類又は名称・使用量・希釈倍数
- ⑤ ゴルフ場において農薬を使用しようとするときは、農薬使用計画書を農林水産大臣に提出すること。
- ⑥ 農作物等・人畜・水産動植物に害を及ぼさないようにすること。
- ⑦ 農作物等および土壌、水質に汚染が生じ、かつ、その汚染に係る農作物等の利用が原因となって人畜に被害が生じないようにすること。
- ⑧ 水産動植物の被害が発生し、かつその被害が著しいものとならないようにすること。
- ⑨ 農薬保管・使用にあたっては、飛散・流出・揮散しないようにしてください。
- ⑩ 農薬は鍵のかかるところで、食品等の他のものと区別して保管してください。
- ⑪ 毒物劇物を扱う方は、毒物及び劇物取締法の規定を遵守してください。